

石破内閣府特命担当大臣（地方創生） 記者会見要旨

日時 平成28年5月19日（木） 16:35 ～ 16:40

場所 首相官邸ロビー

（冒頭発言）

本日は、区域計画の認定及び日本再興戦略における国家戦略特区関係の記載についてが議題でありました。区域計画の認定につきましては、東京圏、関西圏、仙北市からの計5事業について認定することになりました。また、今般の日本再興戦略に向けた国家戦略特区関係の案文についての議論がございました。平成29年度末までを「集中改革強化期間」とした新たな目標、追加の規制改革事項等について、会議として了承したところがあります。後ほど事務方から説明させますが、重点6分野をはじめとする残された岩盤規制の改革、事業実現のための窓口機能の強化等々の取組を新たな目標として設定するものであります。総理からの御発言はお聞きの通りです。

（質疑応答）

問： 日本再興戦略に盛り込むことが決まりました。これまでの取組を振り返って、いかがでしょうか。

答： 着実に成果は出ていると思っています。これから先、また新たに集中して、残されたいわゆる岩盤規制に改革を加えていくということなのですが、今日も色々指摘がありましたが。いまひとつ国民に特区の取組が運動論として伝わっていないという認識をしておいて、今日の国会答弁でも申し上げましたが、この国家戦略特区の活用の仕方について、もう一工夫いるのかもしれないと思っています。

今日、指摘があった6つの事項というのは、それぞれかなり意義の深いものだと思っておいて、議論も大切ですが、答えを出していくということと、それを実行することによって懸念されることに対し答えを出していくことをセットで、スピード感をもって決めていくことが大切だと思っています。

問： 特区の工夫のお話がありましたけれども、大臣の個人的な見解かもしれませんが、こういうところはもうちょっと工夫したほうがいいんじゃないかと今お考えになっていることはありますでしょうか。

答： 今日の議論でもあったように、だいたい常連さんとなる自治体が決まってきた。  
あとの地域は、あまり考えたこともないとか、特区の特例が全国展開されるまで待って  
ましようというような、いかにも従来型の意識であります。そのことが悪いというつも  
りはないんですけども、こんなものもどうでしょう、あんなものもどうでしょうとい  
った提案を政府側からするというのは、自己否定のようなところがあって。では、どう  
したらいいんだろうか。これはこういう規制があって、かくなる理由に基づくものであ  
って、でも、これでいいんですかねといった問いかけを誰がするんだろうか。国会の議  
論では、「政府がすべきだ」という話があったが、哲学という言葉を使うのが正しいか分  
からないが、示唆のようなことをどのように行うか、それがその行政の担当者や国民に  
我がこととして感じられ、そしてそれによって世の中がこう変わっていくんだねと認識  
されるためには、どういう工夫があるのかなということです。一工夫はありますよね。

問： 周知のために検討していることは、何かありますか。

答： 今日、坂村議員から、広報官みたいなものを置いたらどうだ、という話がありました。  
それは必要なのかもしれませんが。つまり、規制をかけることによって今まで成り立っ  
てきたのが行政ですから、これをこう変えるんですと広報するのは、これはまた先程の  
話のように、なかなか難しいことなんですね。本当に分かってなければ広報なんてでき  
ない。国家戦略特区に関し主に手掛けてきたことの中で、広報宣伝というのは一番難し  
いと思っていることの一つです。特区の取組を国民運動としての軌道に乗せるために、  
こうするとわかるんですよというようなことを皆さんからもご提案いただけると。どう  
いう記事を書けばわかりやすいかというのと一緒です。是非お知恵をお貸しください。